

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970101966		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	サテライト フレンド高の原		
所在地	奈良県奈良市朱雀6丁目2-15		
自己評価作成日	令和6年1月8日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2970101966-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和6年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が家庭的な雰囲気の中、明るく、楽しく、生き生きと生活していただけるように努めています。事業所が閑静な住宅街のなかにあり、地域住民との交流やふれあいを大切に、ご利用者とともに、地域の行事や活動に積極的に参加しています。(コロナ禍のあいだは地域の行事がほとんど中止。ホームにおいても自粛)。また会社独自の介護プロ・OJTチェックリストを活用した教育システムで、職員のスキルアップに努めています。今後も、ご利用者が、ホームで、地域で、安心・安楽の暮らしができるよう努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは、近鉄高の原駅から徒歩15分の住宅地の一角のバス通りに面して立っている。社員寮を改造した建物は傾斜地にあり、玄関の階段を上ると一階のリビングキッチンにつながっている。1階には、キッチンから見渡せるリビング、お風呂、トイレがあり、階段で中2階、2階へとつながっている。東の窓からは、眼下に住宅街、遠くは若草山が望め山焼き鑑賞には絶好の場所である。利用者は、入退去があり自立の方が多くなりリビングと居室を自由に行き来し、腕自慢の職員が作る食事を「美味しい」と完食している。職員は、長く務める人が多く、息が合っていると話されていた。管理者は、利用者の希望に素早く対応するよう努め、ゆったりとした雰囲気が流れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	サテライト フレンド高の原 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示して、日々確認できるようにしている。この理念をもとにご利用者が安心安楽な生活をしていただけるよう取り組んでいる。	法人理念の「利用者の心と体に寄り添い安心できる生活をお手伝い」「利用者の尊厳を守り自立の支援・地域に開かれたホームを目指す」を掲示し、事業所スローガンの「安心、安楽」なホーム作りに向けて、職員は日々実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版や運営推進会議を通じて、情報交換やお誘いを頂く。コロナ禍で地域の行事・イベントが中止になり参加できなかった。数年ぶりに地域の夏祭りに参加する。小学校の下校時の子供見守りボランティアに参加させて頂いている。	自治会に加入し、管理者は総会に出席している。コロナ禍で地域の行事に参加することは控えていたが、地域の子供見守りボランティアやクリーンキャンペーンには職員が参加した。コロナも5類になり、地域の行事も徐々に再開し始め、利用者数名が夏祭りに参加したが、その後の地域行事参加は状況から見送っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や地域包括支援センターと地域の高齢者や認知症の方をどのように守っていくかを話し合っている。地域のグループホームなどと情報交換してより良いサービスを提供できるよう努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター、民生委員、近隣のグループホーム管理者等参加していただいている。2か月ごとに開催して、入居状況や毎月の活動状況を紹介し、意見や助言をいただいている。	運営推進会議はコロナ禍でリモート開催していたが、行政の指示で6月から2か月ごとに近隣のグループホームと合同で通常開催している。地域包括、民生委員、近隣薬局、近隣グループホーム管理者が参加しているが、利用者や家族の参加がなく外部評価結果の公表を知らない家族も多い。	運営推進会議の家族の参加については、遠方、高齢など難しいことも多いとのことだが、会議の内容を工夫したり、意見を集めるなど家族が参加しやすい工夫と外部評価結果の家族への配布が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉課や生活保護課と日頃から連絡・相談している。	市の介護福祉課に出向き、利用者の必要な手続きを行っている。生活保護受給者の入居が多く、生活保護課と相談や連絡を密にとって、連携して支援している。ベトナムからの特定技能研修生を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体・ホーム全体として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身拘束についての研修を年2回実施している。身体拘束のない暮らしを実践している。	契約書に謳い身体拘束は行ってない。身体拘束をしないケアのリスクについて、利用開始時に説明している。職員は、法人の身体拘束研修を動画で受講した後、事業所全体で話しあっている。階段の柵には簡易の鍵を付けているが、利用者はエレベーターを使い、1Fのリビングと2階の居室を自由に行き来している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・不適切ケアの研修を通して、管理者・職員ともに認識・理解を深めている。事業所内で虐待がないよう注意を払っている。事業所内で虐待行為はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料などによって、職員にその内容を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用契約書を文書で示し、説明を行っている。説明を行うに当たって一方的にならないようにご理解頂けたか、疑問点や心配な点はないか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見や要望は日頃の会話の中から、くみ取るようにしている。ご家族の意見や要望は面会時や電話で確認するようにしている。毎月のケア会議等で意見や要望など検討してケアに反映させている。	日頃は、面会時や電話、目安箱を設置し家族の意見を聞いているが、運営に反映する意見は出していない。毎月利用者の様子を書いた「一言通信」を家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は常日頃より耳を傾け、よく聞くように心がけている。ベテラン職員が多く風通しがよく、気軽に意見や提案をしてくださる。	管理者は、月に1度開催のケア会議や日常の会話から意見を貰っている。ベテランの職員が多く忌憚のない意見が聞ける。申し送りノートを利用して連絡事項、提案、ケア内容を共有している。職員からの物品の購入や利用者の座席位置についての提案を取り入れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループで介護プロキャリアアップ制度があり、スキルアップできる。職員がそれぞれ成果を見て、やりがいや向上心を持って働ける環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内では教育に特に力を入れており、介護プロキャリアアップ制度にて職員のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームの運営推進会議に参加して情報交換や意見交換を行っている。グループ内の事業所とは毎月の会議で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に関する問い合わせが合った時や、初期面談時に、利用勧誘を推し進めるのではなく、ご本人の困っていること、不安なことや要望などの傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関する問い合わせが合った時や、初期面談時に、利用勧誘を推し進めるのではなく、ご家族の困っていること、不安なことや要望などの傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事務所に相談がある時はほとんどグループホーム利用が前提であるが、本当にグループホームで良いのか一歩引いて観るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、洗濯干しを手伝ってもらったり、調理や野菜や果物の皮むきや配膳・盛り付けなどをお手伝いして下さっている。役割のある生活を過ごしていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からの連絡はもとより、1か月に1度の職員からの一言通信(その月のお体の様子や暮らしの様子をまとめたもの)。笑顔だより(写真付きの新聞)を送付して関係維持、向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所など関係継続の支援を意識するとともに、馴染みの人や場所を作るように努めます。	近隣のお店での買い物や喫茶サロンに出かけていたが、コロナ以降中止しており、馴染みの場所や人がホームや家族に絞られてきている。年賀状が届いたり、最近では、近隣に家族と買い物に出掛ける人や家族の介助で受診する人の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を考え、座席の配置の工夫やトラブルが出ないように、さりげなく見守りを行っている。様々なレクリエーションを取り入れ緩衝材になるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が見込まれ退居となってしまうたり、他の施設に転居されてしまった場合にお見舞いに伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の日頃の会話や様子により希望や意向を把握するように努めている。出来る希望はすぐに対応するよう心掛けている。	現在利用者の思いや希望は、日々の会話の中で聞き取り、喫煙や嗜好の希望に沿うよう対応している。「会話がしたい」や「お手伝いしたい」の希望には、介護計画に反映し実行している。自分の今後について記している利用者の思いを、家族と事業所で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報、基本情報、アセスメントシートを活用している。ご本人やご家族からの話から情報を聞き取り職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の一日の過ごし方、心身状態、有する力など、職員同士情報交換し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化や介護記録をもとに、ご本人ご家族の意向を聞き取り介護計画を作成している。	利用者と職員の関わりや会話を増やし、日頃の様子や聞き取った内容ををもとにケア会議で評価し、長期目標1年、短期目標を6か月で見直している。旅行好きの方からオーストラリアに行った話が出たので、話題に挙げるよう計画を追記したり、掃除好きの人には窓ふきを入れるなど個々の楽しみごとのプランを考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、介護記録として日常に生活の様子やバイタル値、排泄状況、食事摂取量などを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況がその時々でニーズが変化するので、随時コミュニケーションを図りながら柔軟に取り組むように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や近くのグループホームと交流し情報交換をしている。地域でご本人が安全で豊かに暮らしを楽しめるような支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医があれば、ご家族のご協力のもと、受診できるように努めている。また、内科往診が月2回、皮膚科往診が月1回ある。歯科衛生士の訪問も月1回ある。	法人グループから内科協力医が月2回訪問診療し、看護師が週1回訪問しており、緊急時には24時間のオンコール対応も可能である。利用者全員が協力医と契約している。また、グループの医療機関で、年1回健康診断を受けている。通院介助も契約すれば事業所が担ってくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問があり、定期的に利用者の状態を確認していただいている。気づいたことは職員、往診医に伝わるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を交えて、病院関係者と現況や予後を話し合い早期の退院を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて、その都度ご利用者・ご家族とカンファレンスを行い、ケアの方向性を決めている。その時の状況に応じた選択肢の提案を行い、ホームで出来ること・出来ないことなどを説明を行っている。	重度化との医師の判断のもと家族、法人本部の医療責任者、管理者で話し合いがもたれ、医療行為ができないことを説明し方針を決めている。グループは、多くの福祉施設を運営しており、そちらに変わられる方もある。職員は看取りの研修を行っているが、看取りの事例はない。今後の方針と体制は検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時やその他対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底をしている。看護師による応急手当の指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難・消防訓練を行っている。水消火器を使用して消火訓練も行っている。地域の防災訓練の際は、無事ですシートを掲げる。	コロナ禍で地域の防災訓練には不参加だが、安否確認用の「無事ですシート」は掲げ協力した。事業所は、少し傾斜地にある建物で、リビングからは勝手口を、居室からは階段を使い玄関への避難経路を決め、利用者も参加して訓練している。夜間対応の訓練も行い、事業継続計画は、法人本部で作成中である。備蓄は多めの食材とランタン、おむつを備えている。家族と災害時の避難場所の共有ができていない。	事業継続計画(BPC)は、本部で作成中とのことであるが4月から義務化になる。事業所で職員への周知が必要になり早い完成が望まれる。また、能登地震も参考に、備蓄の再考や避難場所の家族との共有が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はアットホームな雰囲気、ご利用者に寄り添うなか、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけやケアに取り組んでいる。丁寧な言葉遣いについて確認している。	利用者をお客様と考え丁寧な言葉を使い、居室に入る時は本人の確認を取っている。また、視線を合わせてのおしゃべりも励行している。法人全体のフレンドだよりに写真を掲載しているが、入居時了承をいただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、献立の希望、レクリエーションの内容、外出希望等を聴きながら進めている。自己決定出来るような質問ができるように意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者優先を第一として利用者自身のペースを大切にしている。安全に個々のライフスタイルで過ごしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の希望の髪型や服装にしているがいつも同じにならないように声掛ける等している。希望者には訪問美容カットに来ていただき利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご利用者に好みや希望を聞きながらメニューを決めている。3食とも職員の手作りで家庭的な料理を提供している。テーブル拭きや洗い物等のご利用者も手伝っている。	料理自慢の職員が多く、手作りの日々の食事やクリスマス、敬老の日弁当の行事食も好評である。利用者は毎食後の片づけやテーブル拭きを手伝っている。毎月のおやつレクで管理栄養士と黒豆饅頭やお好み焼きを作り楽しんでいる。外部評価当日は、利用者の「美味しい」の言葉とともに全員が完食されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立日誌を活用し、同じ献立が続かないようにバランスよく食事がとれるように工夫している。食事量・水分量は毎日記録している。水分量の不足等は、こまめに水分をとっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きに誘導している。痛みや不具合はご家族に連絡し、歯科受診を支援している。義歯は夜間お預かりをして洗浄液につけて翌朝お返ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時に声掛けやトイレ誘導で排泄できるように支援している。自然排便に向けてヨーグルト・牛乳・バナナを食している。自由にトイレに行かれるご利用者もいる。	前回排泄レベルの低下を課題にしていたが、入居者の入れ替わりがあり、おむつ利用者は夜間1名になった。排泄が自立している人も多く、排泄リズムに合わせての声かけや見守りに対応している。1日1度はトイレに座ってもらうように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、乳製品の摂取、運動等で自然に排便できるように努めている。内服液が必要な方は、主治医と相談しながら服薬のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を実施。介護者とご利用者1対1の入浴で会話が弾んでいる。希望のあるご利用者には個々に応じた対応をしている。	浴室までの廊下が、スロープ状に工夫されている。家庭浴槽に週に2回、午前中に入浴している。利用者により、カラスの行水や長湯を見極め、希望の湯温の調節も行い浴槽に肩まで浸かって楽しんでいる。季節には柚子や入浴剤を入れることもある。「入りたくない、明日にしてほしい」との希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して、ここに合った生活リズムを作るように配慮し、安眠につなげている。必要な時には職員が居室を訪問、ゆっくりお話ししながら休息していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報提供書を確認し服薬介助を行っている。症状や状態に変化があれば医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものの片づけ、洗濯干し、食器洗い、配膳など利用者に応じた手伝いをさせていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦のため外出制限があった。日光浴をしていた。数年振りに地域の夏祭りに参加する。11月は奈良公園にドライブに行く。	以前は夏祭りや春、秋には奈良公園にドライブに出掛けていたが、感染症予防のため出掛けることに躊躇している。公園まで歩くのも遠いと感じている。日中は、駐車場で日光浴、リビングでのラジオ体操、歌、ゲーム、ドリルのレクリエーションを行っている。家族と買い物や食事に出かける人はいる。	日中はリビングで座っていることが多い。新型コロナで閉鎖的になっており、認知症の悪化や身体機能も低下すると考えている。管理者も「暖かくなったら歩くようにしたい」と考えており、工夫されて近隣の公園に散歩に出かける日が多くなることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者が買い物希望した際、スーパーでの買い物に付き添い等支援している。コロナ禍で買い物に行けなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が家族に電話を希望される時は、電話をかけていただくよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家をそのまま利用した建物で、玄関、台所、リビングや浴室、トイレは家庭的で居心地良い作りになっている。リビングはキッチン、食堂を一体化した広間になっていて、調理中の音や雰囲気も感じられる。リビングは大きな窓があり、景色が良く季節感が感じられる。若草山も見える。	テーブルやソファが置かれたリビングからは、キッチンが見渡せ調理中の職員の様子が目に入る。お風呂の入り口には、美人の湯との札が出迎えてくれ、東側の大きな窓からは、若草山が望めお月見や若草山の山焼きが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的なリビングで一人ひとりがゆったり、穏やかに過ごしていただけるように工夫している。また、気の合った方々で楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた馴染みの家具等を持ち込まれ、自室として安心して生活していただいている。	居室は、2階と中2階に和室や洋室の部屋がある。2階のベランダに面した1部屋には、コロナ対策として陰圧機ダクトが設置されている。居室には、クーラーと介護用ベッドが設置してあり、利用者は、筆筒や木製ソファ、テレビ、位牌などを持ち込み、ぬいぐるみや写真などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家活用型であるため、エレベーターや手すりを設置したり、浴室までの出入り口をスロープにする等工夫している。		